

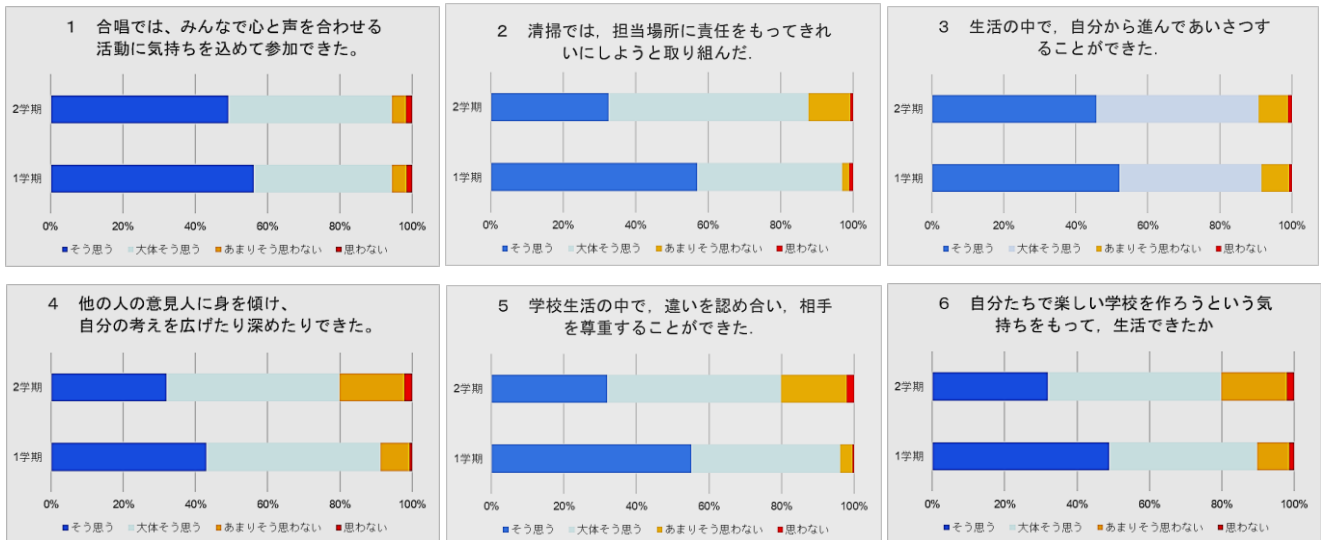
令和7年度 南宮中学校 学校自己評価【結果と考察】について①

中野市立南宮中学校長 大塚 秀樹

日頃より、本校の教育活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本年度、本校では「よりよい学校づくり」を目指し、生徒・教師・保護者のそれぞれの立場から学校生活や教育活動を振り返る学校自己評価を実施しました。その結果について報告いたします。

1 生徒アンケートの結果（抜粋）と考察



(1) 三本柱（合唱・清掃・あいさつ）について（アンケート結果1～3）

合唱・清掃・あいさつのいずれにおいても、生徒の自己評価は1～2学期にかけて概ね高水準を維持しており、活動そのものが学校生活の中に定着しています。

三本柱として、活動が形骸化せず、学校の伝統として意識化され、継続されている点は、南宮中学校の大きな強みといえます。1学期と比べて2学期は、生徒の自己評価は全体として高水準を維持しているものの、活動への主体性については課題が見られた学期であったといえます。

本年度の立会演説会（パネルディスカッション）で三本柱の意味そのものを討論したように、生徒一人ひとりが活動の意味や価値を問い直せる機会や、学年・集団の特性に応じた動機づけの工夫を支援していきたいと考えています。

(2) 学校生活に関して（アンケート結果4～6）

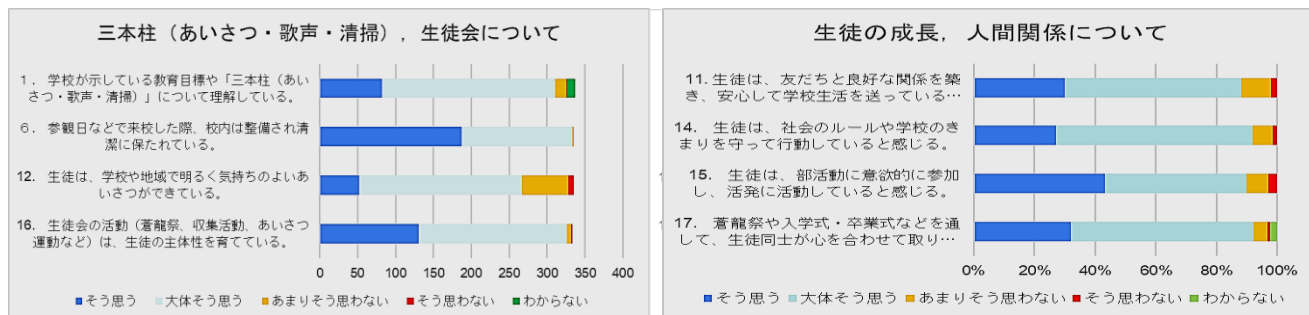
学校生活全体として、落ち着いた雰囲気や基本的な活動への参加は、2学期も崩れることなく続いています。行事やさまざまな活動において、教師の目から見た生徒の参加の様子は安定しており、授業や行事などが見通しをもって行われ、生徒が安心して学校生活を送れる状態が保たれています。

人との関わりや話し合いの場面では、積極的に考え、行動している生徒の姿がよりはっきりと見えるようになってきました。人との関わりや話し合いの場面では、自分の考えをもって積極的に行動する生徒の姿が、これまで以上に見られるようになってきました。教職員の自己評価からも、生徒同士の関わりや活動がより深まるよう、教職員が意識して支援や声かけを行っていることが分かります。

2学期は4～6について、前向きに取り組む生徒と、少し気持ちが乗りにくくなっている生徒がはっきりしてきました。今後は、学校生活の中での話し合いや活動を通して、生徒一人一人が「自分は何を感じ、どんな役割を果たし、何を学んだのか」を丁寧に振り返り、活動の良さを実感できる機会を大切にしていきたいと考えています。

2 保護者アンケートの結果（抜粋）と考察

(1) アンケートより



保護者アンケートの結果から、多くの皆様が、本校の教育活動を概ね肯定的に受け止めてくださっていることが分かりました。生徒が安心して学校生活を送りながら、学習や行事、部活動、生徒会活動などに意欲的に取り組んでいる姿を評価していただき、日頃から学校の教育活動を見守っていただいていることに感謝申し上げます。

一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の数値や声をしっかり受け止めてまいりたいと思います。学校の教育活動改善のヒントはそこにあるととらえ、工夫した取組を進めてまいります。

(2) 自由記述欄より

本アンケートの自由記述欄には、多くの保護者の皆様から、学校や生徒たちへの温かい励ましの言葉とともに、学校生活に関する率直なご意見・ご要望をお寄せいただきました。感謝申し上げます。すべての記述に目を通し、生徒の姿や学校の取組について改めて考える機会とさせていただきました。寄せられた記述を分類ごとに整理しました。

① 多く寄せられた温かいお言葉について

- ・ 日頃の学習面・生活面での指導や、教職員の生徒への関わりに対する感謝
- ・ 合唱や蒼龍祭など、学校行事や学校文化への評価
- ・ 生徒会の取組（制服・運動着の見直し等）に対する前向きな評価
- ・ 生徒一人一人の成長や頑張りを温かく見守る声

② 生徒の安心感・人間関係に関するご意見

- ・ 自己表出が苦手な生徒や不安を抱える生徒も、安心して自分を表現できる学級づくりへの願い
- ・ 仲間を大切に、孤立を生まない学校生活への願い
- ・ 言葉の使い方や心の成長への指導をより大切にしてほしいという願い

③ 授業・学習に関するご意見

- ・ 話し合い活動だけでなく、静かにじっくり考える時間の確保も望む声
- ・ 授業中の生徒への関わり方や質問への対応の在り方についてのご意見
- ・ 生徒の学習への自信や意欲を育てて欲しいという願い

④ 学校生活・きまり・情報発信について

- ・ 防寒着や上着の着用など、生活のきまりの運用に関するご意見
- ・ 感染症や学級閉鎖時の情報発信への要望
- ・ 学年・学級通信などによる学校の様子発信に感謝する声

- ⑤ 行事・部活動・地域クラブに関するご意見
 - ・音楽会や行事の参観方法や環境づくりへの提案
 - ・部活動や地域クラブ化に伴う、体力面・生活リズムへの不安の声
 - ・連絡体制や見通しをもった運営への要望
- ⑥ 登校支援・進路に関するご意見
 - ・登校に困難を抱える生徒や家庭への支援に対する感謝と要望
 - ・フリースクール等、多様な学びに関する情報提供への期待
 - ・進路指導に対する安心感や、今後への願い
- ⑦ PTA・学校運営に関するご意見
 - ・PTA 役員決定の仕組みやルール化への要望
 - ・学校と保護者の役割分担についてのご意見

3 アンケート結果をもとにした今後の方向について

(1) アンケート結果から見られる南宮中の良さ

- 生徒同士の良好な人間関係と安心感のある学校生活
- 行事・生徒会活動を通じた主体性と一体感
- 生活指導・規範意識の定着
- 健康・安全を重視した教育環境づくり

(2) 課題、今後の改善・工夫が求められる点

- 生徒の学習意欲や家庭学習の取組に対する個人差
- それぞれの活動の意味を問い直し、自分で考え判断できる生徒の育成
- あいさつ・生活習慣の定着度のばらつき

(3) 今後の方向

南宮中の良さについては生徒とも共有し、自分たちに自信をもちながら、引き続き大切にしていきます。また、課題については次年度の重点にも位置づけ、具体的な取組の中で改善を図っていきたいと思います。

4 全体を通して（終わりに）

保護者の皆様からたくさんのご意見をいただきありがとうございました。すぐに改善できること、時間をかけて検討が必要なこと、慎重な対応が求められることなど、さまざまな内容が含まれていますが学校としてできることから一つ一つ取り組むとともに、引き続き保護者の皆様と連携しながら、生徒一人一人が安心して学び、成長できる学校づくりを進めてまいります。

授業改善に関わる1学期から2学期への変化（全体平均の比較）

授業改善に関わる4つの視点（安心・自分の意見・粘り強さ・相談）で、2学期生徒たちは授業でどのような成長や変化を実感していたのかを、生徒アンケートから数値を集計し、1学期の数値と比較をして成長・変化の様子をまとめました。2学期は1学期に比べ、多くの観点で「そう思う」という肯定的な回答が増加しており、生徒たちが安心して意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

1. 観点『安心』

～ 安心して学べる雰囲気、より定着しました ～ 授業の基盤となる安心感については、1学期から引き続き非常に高い水準を維持しています。「そう思う」「大体そう思う」を合わせると95%を超えており、「そう思わない」否定的な回答もわずかに減少しました。生徒たちが安心して学習できる環境が整ってきています。

- 1学期： 59.2 / 35.9 / 4.2 / 0.8
- 2学期： 59.9 / 35.3 / 4.2 / 0.6

※ 以下の数値は左から「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」

2. 観点『自分の意見』

～ 自信を持って自分の考えを持てる生徒が増えました ～ 「自分の意見をもつことができた」と強く実感している生徒の割合（そう思う）が、1学期の40%台から2学期には50%台へと大きく伸びました。学び合いなどの活動を通して、主体的に考える力が着実に育まれてきています。

- 1学期： 46.6 / 43.7 / 8.4 / 1.6
- 2学期： 51.1 / 40.9 / 7.4 / 0.5

3. 観点『粘り強さ（教科の学びの本質）』

～ 課題に対して粘り強く取り組む姿勢が大きく向上しました ～ この観点は、2学期で最も大きな伸びが見られました。「そう思う」と回答した生徒が約8ポイント近く増加しています。難しい課題に対しても、自分なりに考え、最後まで粘り強く取り組む姿勢がクラス全体に広がっています。

- 1学期： 47.2 / 43.0 / 8.6 / 1.3
- 2学期： 54.9 / 39.2 / 5.5 / 0.4

4. 観点『相談』

～ 困ったときに助け合える関係性が広がっています ～ 「そう思う」と「大体そう思う」を合わせた肯定的回答の合計は、1学期の約90.8%から、2学期には約94.7%へと増加しました。特に「そう思わない」という回答は0.2%まで減少しており、ほとんど全ての生徒が、困ったときに仲間と相談できる関係を築けていることがわかります。

- 1学期： 59.3 / 31.5 / 7.6 / 1.7
- 2学期： 51.5 / 43.2 / 5.1 / 0.2

コミュニティースクール運営委員会より（学校関係者評価）

本校の教育活動や学校自己評価の結果について、地域の方の立場からご意見をいただきました。学校生活を参観していただく中で、「生徒が安心して学校生活を送り、主体的に活動している様子が感じられる」「小テストを活用した取組やICTの活用が広がっている点も評価できる。」「多数の学びの場があり、子どもたちが安心して居場所が整備されている。」といった意見をいただきました。

一方で、「肯定的でない回答の背景を丁寧に分析することが大切である。」「学期ごとの変化を振り返ることも重要である。」といった助言もいただきました。そして、「来なくなる学校づくり」や不登校への対応の充実、三本柱の意義を改めて大切に考えていくことなど、今後への期待も寄せられました。